

2022年8月2日

各位

アストモスエネルギー株式会社

**船舶用バイオ燃料のデータ観測プロジェクトに参画
ーバイオ燃料サプライチェーンの透明性確立も目指すー**

アストモスエネルギー株式会社(代表取締役社長:小笠原 剛、以下「当社」)は、日本郵船株式会社(代表取締役社長:長澤 仁志、以下「日本郵船」)と共に、海事産業の脱炭素化を推進することを目的として設立された NPO 法人 Global Centre for Maritime Decarbonisation(以下「GCMD」)が主催する船舶用バイオ燃料実証プロジェクトに参画しますので、お知らせいたします。

本プロジェクトの一環として、日本郵船が保有し当社が定期用船している大型 LPG タンカーにシンガポールで船舶用バイオ燃料を供給し試験運航する取り組みを 2022 年 8 月よりスタートいたします。

当社は世界的な重要課題である環境負荷の低減に向けた取組を加速し、持続可能な社会実現と安定供給に努めて参ります。

■船舶用バイオ燃料について

船舶用バイオ燃料は、植物や廃食油などのバイオマスを原料とし、既存の船舶エンジンやインフラの活用が想定できることから、脱炭素化に向けた有力な次世代燃料の候補の一つとされています。

■GCMD のプロジェクト概要

GCMD は、2021 年 8 月にシンガポール海事港湾庁(MPA)を中心に設立された NPO 法人で、透明性あるバイオ燃料のサプライチェーンを確立し、海事産業の脱炭素化を推進するためにこの実証プロジェクトを始めました。

本プロジェクトには日本郵船とアストモスの両社を含めた 18 の企業・団体が参画、総額約 1800 万ドルの投資規模で今後実証実験が行われる予定です。船舶用バイオ燃料サプライチェーンの透明性確立も目的の一つであるため、需要者側の海運会社だけでなく供給者側のエネルギー会社も参画しているのが特徴です。具体的には、参画している海運会社がバイオ燃料を使用して試験航行を行い、GCMD にバイオ燃料使用に関するデータを提供、GCMD が提供されたデータを取り纏めて各社にフィードバックするという取り組みを行います。

プロジェクトは、透明性のある適切なバイオ燃料のサプライチェーンを構築することによって船舶用バイオ燃料の国際的な基準を形成し、海事産業がライフサイクルの観点から正しく GHG 排出量を削減できるようにすることを目指します。

(参考) GCMD プレスリリース:<https://www.gcformd.org/press-release-dropin-biofuel>

■大型 LPG タンカーのイメージ



以上

【本件に関するお問い合わせ先】

人事総務部 進藤 電話:080-8435-2515

e-mail: kuniaki.shinto@astomos.com

URL: <http://www.astomos.jp>